

第IV部門 言語表現における緑のイメージ研究

大阪工業大学工学部 学生員 ○野田 正晃
 大阪工業大学工学部 学生員 兎本 尚之
 大阪工業大学工学部 正会員 田中 一成

1 はじめに

近年、我々の生活において「緑」の在り方も複雑に変化してきている。自然環境についての問題が叫ばれるようになり、緑の減少もその中のひとつにあげられてきた。さらに、都市の開発が進むことで、人々の望む個人生活環境が得られた反面、都市の生活環境は忙しくなり、窮屈さも増すという矛盾が生じてきた。あらゆる都市・環境問題の発生にともない、ゆとりある生活が求められ、いたるところに緑化の意識が芽生えてきている。生活空間へ緑を取り入れるため、人が緑を扱い操作する機会が広まっている一方で、いかに緑を扱うかを考えなければならない。例えば公園計画などでのとにかく緑を用いたら良いとする傾向など。緑を単純にシンボル化してしまい、ただ在る物という認識が一般的になっていると考えられる。そこで我々は緑に対する捉え方と認識に着目した。日常生活するうえでの、言葉は、緑を認識し表現するための手段である。緑の表現が平坦であることは、緑を認識し扱う場にまで影響すると考えられる。この研究では、様々な「緑」をあらわす形容詞を捉えることにより、緑空間をデザインする際に寄与する緑表現が豊富なものになることを目指す。

2 目的と方法

本研究では、言葉による緑の表現において、人々がどのような緑をイメージしているかを探る。我々が緑を捉えて表現する際に使う言葉（修飾語）はいくつかあげることができる。その言葉と言葉に付随するイメージを考察することで、抱いている緑を少しでも明確に理解することを試みる。

人の使う言葉とそれに付随する心理的イメージを抽出するため、アンケートによる調査を行う。言葉による緑の表現を考えるにあたり、はじめに言葉の選定が必要となるためである。選定した言葉から人の持つイメージを聞き出すためのアンケートを作成する。アンケート調査の結果をもとに考察を行い、また言葉からイメージする緑を、わかりやすく現実的にシミュレーションを行う。

3 言葉の選定から緑のイメージアンケート(予備調査)

文献や日常語を基に緑を表現する際に用いる言葉をまとめた結果、次の22種類に決定した(図1)。次に人々の持つイメージをできる限り制限することなく引き出してもらうために、各個人が持つイメージを自由に書いてもらうアンケートを行った。22種類の言葉からそれぞれイメージする緑について簡潔な文章説明で記述してもらった。アンケートの結果

1. 濃い緑	2. 明るい緑	3. 浅い緑	4. かたい緑
5. 青い緑	6. 黒い緑	7. 洪い緑	8. 淡い緑
9. 薄い緑	10. 暗い緑	11. 深い緑	12. 軽い緑
13. 湿った緑	14. 悲しい緑	15. こわい緑	16. やわらかい緑
17. 重々しい緑	18. かわいた緑	19. 気持ちよい緑	
20. 神々しい緑	21. さびしい緑	22. うっとしい緑	

図-1 緑表現の言葉

アンケートの結果からいくつかの条件を伴ってひとつの緑をイメージしていることがわかった。アンケート結果には夏の樹木、春の緑、夜の緑などその他多くの回答が出揃った。それらを総合的に考察した結果、緑イメージに関係する条件は天候、時刻、季節、大きさに分類することが出来た。

4 緑のイメージ本調査と結果

アンケート(予備調査)の結果の考察をふまえてそれぞれの緑表現に対し、天候を「晴れ・くもり・台風・雨・その他」に、時刻を「朝・昼・夕方・夜・その他」に、季節を「春・梅雨・夏・秋・冬・その他」に、大きさを「高さ・広さ・大きさ」に更に高さを「高い・低い」に、広さを「広い・狭い」に、大きさを「大きい・小さい」に項目を分類し、それぞれの緑表現からイメージできる項目を選択するアンケート(本調査)を実施した。

さらにアンケート結果を基に各条件における単純集計と条件相互の関係を
見るためのクロス集計を行った。クロス集計では条件項目の大きさを緑量
に置き換え題目をわかりやすくしている。ここでは各条件を二つずつの関
係におき、全ての組み合わせ 1 天候×季節 2 時刻×季節 3 緑量×時刻
4 天候×季節 5 緑量×天候 6 緑量×季節 についてした。『濃い緑』の
結果を例に挙げると単純集計においては主に、天気は晴れ、時刻は夜、季
節は夏、大きさは高い、広い、大きいという結果になった。クロス集計で
条件相互の関係をみると、主に夏と夜の条件が濃い緑に強く影響している
ことがわかった。考察結果をまとめると濃い緑のひとつのあり方としては、夏の晴れた夜における高広大の緑
が導き出せた。その他にも、集計結果からの条件を考慮した緑のあり方を多数抽出することができた。ここで
は参考として濃い緑の例を掲載したが、その他 21 種類の緑についても同様の作業を行い結果をまとめた。



図－2 濃い緑の写真例

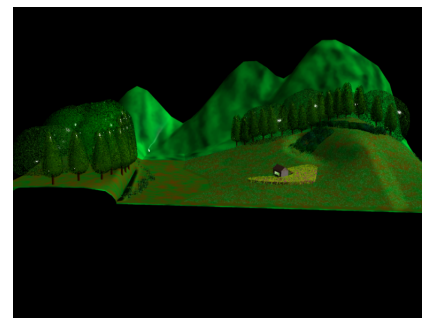
5 緑のイメージ分析シミュレーション

これまでの集計したデータを用いて、緑を具体的にシミュレーション表
現することを試みる。しかし、5 章までに集めたデータだけでは、シミュ
レーションするために用いる色や形態の選定が困難である。ここでは、明
確な視覚化は出来ないまでも、色や形態は我々のイメージを補い緑のイメ
ージ分析シミュレーションを作成した。各緑の条件結果を大別すると主に
「夏の晴れた夜」(図3)「春の晴れた朝」「冬の雨の夜」の3つの傾向に分類で
きた。そこで、この条件をふまえた3つの緑を身近な場所として、大阪工
業大学周辺の地図に色付け分類を行った緑地図を作成した。



図－3 緑地図(夏の晴れた夜)

さらにアンケート結果を参考に、一例として「濃い緑」の3次元シミュ
レーションを作成した(図4)。予備調査の結果の中に森、山や茶畑があったの
でこれらも形態の参考にして濃い緑の3次元シミュレーションを作成した。

図－4 濃い緑の
イメージシミュレーション

6 まとめ

本研究では言葉による緑表現に着目し、「緑」を修飾する語に関するイメ
ージを調査し研究を行ってきた。人々の持つイメージを言葉や分析結果か
ら考察する過程において幾つもの解釈を行ってきたが、そこにはイメージ
領域の中でいくつもの緑風景を想像できる一方で、それをいかに研究成果
として、また現場に役立つデザインツールとして表現出来るかが本研究における課題となった。緑イメージ
に関わる条件を導き出し、各緑においての影響関係がわかることで、緑の捉え方は明確なものへ近づいたとい
える。今後は、各緑の具体的な色や形態に関わるデータを調べることで、より明確なシミュレーションを作成
することができると考えられる。

参考資料(図－2) 山の雨 (著)高野 潤 (出版社)岩波書店

参考文献 移ろいの風景論—五感・ことば・天気 (著)小林 亨 (出版社)鹿島出版